

最終アウトカム(住民のあるべき姿)

地域とつながりをもちながら、住民が望む人生を送ることができる

【看取り】 本人が望む看取りを、地域で実現する体制を整える

1. 本人の看取りの意志を関係者で共有できる
2. 看取りの体制に関する課題を共有し、解決策を見出す
3. 住民が看取りについて理解を深める

1. 看取り研修会の開催

目的:ケア関係者が、本人の生きるを支える「思い」を聞くコミュニケーション技術を身に着ける

テーマ:胎内市エンドオブライフケア研修会 Part2

～地域とのつながりをもちながら、住民が望む人生のために～

日程:11月19日(土)午後1時～5時(240分)(予定)

対象:胎内市内の医療介護事業所の従事者

在宅医療介護連携ロジックモデルワーキングメンバー

講師:エンドオブライフケア協会代表

神奈川県横浜市 めぐみ在宅クリニック院長 小澤竹俊氏

2. 各事業所における看取り体制のヒアリング

目的:看取り期に関わる関係者・関係機関が抱えている課題を拾い、センターと顔の見える関係をつくることができる。

日程:令和4年7月から 1か月に2～3事業所程度

対象:(1)市内の介護保険事業所のうち、夜間宿泊するサービス(小規模多機能型居宅介護、ショートステイ)2事業所

(2)市内の居宅介護支援事業所(9事業所)の介護支援専門員

内容:顔の見える関係を作るために、事業所に出向きインタビューを行う

しばた地域在宅医療介護連携センター 平野、胎内市地域包括支援センターみらい 佐久間の2人で事業所に行きます

3. 出前講座「在宅医療と人生会議」

目的:地域住民が在宅医療や介護について理解し、在宅での療養が必要になった時に必要なサービスを選択できるようにする。また、地域住民が人生の最終段階におけるケアの在り方や在宅での看取りについて理解する。

対象:市内在住・勤務の5名以上の団体・自治会・お茶の間サロン等

内容:在宅医療と人生会議(具体的な内容は要相談)

時間:60～90分程度